



2021年度

(令和3年度)

社会福祉法人イリアンソス

# 事業報告

## 目次

### 第1 2021年度イリアンソス事業報告について

1. 法人の理念
2. 情勢展望
3. 法人事業
4. 事業方針の具体化
5. 法人運営
  - (1) 法人役員
  - (2) 職員体制
  - (3) 理事会・評議会
  - (4) 法人会議
  - (5) 家族会
  - (6) 研修
  - (7) 施設整備
  - (8) 職員採用
  - (9) 担当者会

### 第2 事業別

1. 日中支援部門
  - (1) 重点課題
  - (2) 各事業所
    - 1) のぞみの家
    - 2) 活動センターかなえ
    - 3) なかまの家
2. 生活寮部門
  - (1) 重点課題
  - (2) 各事業所
    - 1) 生活寮そら
    - 2) 生活寮にじ・かぜ短期入所
3. 余暇・居宅部門
  - (1) 重点課題
  - (2) 各事業所
4. 相談部門
  - (1) 重点課題
5. 事務部門
  - (1) 重点課題

## 第1 2021年度 イリアンソス 事業報告について

### 1. 法人の理念

- 1 障害のある利用者一人一人を「主人公」として、生きてきたそれぞれの歴史を大切に、これからの人生を共に考えていくことのできるきめの細かい丁寧な実践をすすめます。
- 2 職員一人一人が見通しと目標を持って仕事に立ち向かい、自らの成長への願いと力量を高めていくことのできる職場づくりをすすめます。
- 3 利用者、家族、職員、役員など法人を構成する一人一人の意見が決定の過程に反映され、理解と納得のもとに実行に移していくことのできる組織運営をすすめます。
- 4 時代の変化や地域の要請に応えていくことのできる法人、施設として経営基盤の確立を求めつつ新たな事業展開をしていきます。

### 2. 法人のすすむ方向

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大から2年が経ち、いまだに収束の兆しが見えません。いわゆる「オミクロン株」の感染急拡大が全国に及んだ昨年未からの第6波では、わが法人の事業所も障害のある人たちと家族、そして事業所で働くスタッフの命や暮らしを守るためにやれることはすべてやり、現在もその対応に追われています。これからもしっかりと情報を共有して、なんとか、この困難な状況を共に乗り越えていかなければなりません。また、次から次へと変種する新型コロナ対応は、一法人で解決できるものではありません。しっかり自治体へも実態を伝え迅速な対応を訴えてきました。

#### 障害のある人の生活を振り回すな

国は昨年来の議論の過程で、いわゆる「通過型グループホーム」の創設を提示してきました。その理由として一人暮らしやパートナー等との同居を希望する者の存在を取り上げ、利用期限を設けることでグループホームの数を抑え、重度化・高齢化を重点に対応するとしています。東京都では「通過型グループホーム」はすでに精神の分野を中心に実施されていますが、その実態はいまだに障害のある人の希望する生活の実現には至っていません。

国のこの方針については社会保障審議会においても懸念の声が挙がり、いったんは継続議論とされ、今国会での法改正は見送られました。

この見直しの動きは、ここ数年営利企業も含めてグループホームの数が増えたことにより予算が大幅に増えたため、国の財政負担(約 2400 億円)を削減するねらいです。

グループホームは、地域での暮らしの場のひとつの形態として民間事業から生まれた社会資源です。病院や施設から地域への移行の拠点であり、家族に代わる集団での生活の場です。実際にホームで暮らす障害のある当事者が、制度

に振り回されては、落ち着いて生活できることもできません。

わたしたちは、障害のある人たちの暮らしを支えていくことを通して、もっともっと国の責任を明らかにし、こうした災害にも安心できる社会を実現するために、社会のあらゆる人たちと連携していくことを強く訴えていかなければなりません。

### **3. 法人事業方針**

#### **(1) 一人ひとりの利用者に合わせた支援を行うために**

昨年度同様、新型コロナウイルス感染状況の中でも、スタッフや利用者、家族の協力のもと、おおむね通常の活動、暮らしの支援を継続的に続けていくことができました。また、旅行などの行事が行えない状況ではありましたが、事業所内でできる範囲で利用者が楽しめる企画を行うことができました。引き続き新型コロナウイルスが終息するまで、利用者家族、スタッフ一人ひとりの命を守る取り組みをめざしていきます。

#### **(2) 人材確保と育成**

職員不足を解消するために、あらたにコンサルティング会社と契約し、常時職員募集を行ってきました。充足までには至りませんでした。一定程度の確保ができました。職員においては、新型コロナウイルス感染の状況においても、オンライン通信で行う研修等にも積極的に参加してもらいました。これからも障害のある人たちの暮らし全般を支援していくために、今後も職員にさまざまな事業を体験して機会を設けていきます。

#### **(3) 事務の一本化の実現と事業の連携**

事務の1本化を実施し、勤怠ソフトを導入することで、職員1人1人が法人内での支援業務を行えるような環境を整えてきています。また、新型コロナ禍でも事務が滞ることなく、事業所間で協力して業務を遂行することができました。

#### **(4) 専門職との更なる連携**

法人との委託契約で定期的に各事業所に派遣している訪問看護ステーションと引き続き利用者の健康や訓練を通して支援の充実を図ってきました。

#### **(5) 利用者・家族会の意見を反映**

コロナ禍のなか全体家族会は1回のみとなりました。引き続き感染については、各事業所を通して家族の意向等聞きながら、自主送迎なども可能な家庭にはお願いしました。

#### **(6) なかまの家の改修**

東久留米市からは、なかまの家の建物の老朽化対策を示してもらえないため、家族会を中心に東久留米市議会に請願を実施しました。12月議会において趣旨採択となったため引き続き実態を伝え、利用者・家族が安全・安心して通える事業所を実現できるよう各方面に働きかけていきます。

#### 4. 事業方針の具体化

法人の長期計画を全体で策定し、法人のめざしていく方向性を示していくことで、現在の事業の展開と今後必要とされる事業について準備していく必要がある。そのためには、長期的な人材育成も同時に行っていく必要がある。

そして、法人の長期計画をもとに3年ごとの計画を策定し、計画が実現していくための資金計画を踏まえた予算を計上していく。

こうした計画を分担していくために5つの部門を置き、課題解決に向けて整理をしていく。

- ア. 法人部門
- イ. 通所部門
- ウ. 生活寮部門
- エ. 余暇・居宅・相談部門
- オ. 事務部門

#### 5. 法人運営報告

##### (1) 法人役員

##### 1) 理事・監事

- ア. 定数 理事7人 監事 2人
- イ. 任期 令和3年6月～2年後の定時評議員会終了まで

##### 2) 評議員

- ア. 定数 8人
- イ. 任期 令和3年6月～4年後の定時評議員会終了まで

##### 3) 評議員選任解任委員

- ア. 定数 3人
- イ. 任期 令和3年6月～4年後の定時評議会終了まで

##### 4) 法人事務局員 2名

## (2) 職員体制

		常勤（上段）					
		非常勤（下段,カッコ内の数字はパート）					
		施設長	サビ管	主任	支援員	事務	小計
日中支援部門	のぞみの家	1	1	1	4	1	8
					3(20)	(1)	3(21)
	かなえ	①	①	2	5		8
					3(18①)	1(2)	4(20①)
なかまの家	①		1	3		4	
				1(7)	1	2(7)	
生活寮部門	うみ	1	1	3(内欠1)	1	16(内欠2)	
				(8)			
	そら		3				
			(2)				
にじ	1	1	3(内欠1)	(1)	(19)		
			(5)				
かぜ			2				
				(3)			
余暇・居宅・相談部門	このみ	①	1	1		3	
				1(9)	(①)	1(10)	
	相談支援	①				2	
				1(5)		1(5)	
	①				1		
	①			①	(①)	1(1)	

※○に数字は兼任 欠は欠員

※サビ管はサービス管理責任者の略

※放課後＝放課後等デイサービス

※移支＝移動支援事業

※かなえ＝活動センターかなえ

※日中＝日中一時支援事業

※相支＝イリアンソス相談支援センター

### (3) 評議員会・理事会

#### 1) 評議員会

回数	日にち	出席者	議事内容	
1	6月23日	評議員 6名 理事 2名 監事 2名	報告	処遇改善金について 内部監査について
			審議	2020年度事業報告の承認について 2020年度決算報告の承認について 理事の選任について 監事の選任について
2	9月30日	評議員 5名 理事 2名 監事 1名	報告	理事長報告 補正予算について
			承認	定款変更(案)について
3	3月24日	評議員 6名 理事 2名 監事 2名	報告	理事長報告 2021年度補正予算について 運営規程の変更について 2022年度事業計画について 2022年度当初予算について 処遇改善(特例交付金)について 施設長人事について

#### 2) 選任解任委員会

回数	日にち	出席者	議事内容	
1	6月17日	理事長 1名 外部委員 1名 監事 1名 事務局員 1名	審議	新評議員の選任について

## 2) 理事会

回数	日にち	出席者	議事内容	
1	6月8日	理事5名 監事2名	報告	理事長報告 処遇改善金について
			審議	令和2年度事業報告(案)について 令和2年度決算報告(案)について 令和2年度監査報告について 理事推薦名簿(案)について 監事推薦名簿(案)について 評議員推薦名簿(案)について 定時評議員会開催について 評議員選任解任委員会開催について
2	6月23日	理事4名 監事2名	審議	理事長の選定について 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種 休暇規程(案)について
3	9月16日	理事6名 監事2名	報告	理事長報告 助成金について
			審議	第1次補正予算(案)について 定款変更(案)について 評議委員会開催について
4	12月16日	理事6名 監事1名	報告	理事長報告 人材募集について のぞみの家A配分について なかまの家の請願について 活動センターかなえの車両リースについて
			審議	補正予算(案)について
5	3月17日	理事6名 監事2名	報告	理事長報告 のぞみの家A配分について なかまの家の給食について 生活寮利用者について
			審議	2021年度補正予算について 運営規程の変更について 2022年度事業計画(案)について 2022年度当初予算(案)について 処遇改善金(特例交付金)について 施設長人事(案)について 評議員会の開催について

#### (4) 法人会議

1) 部門長会議 月1回 理事長、各部門責任者で法人や部門事業所の課題の確認を行いました。

2) 法人事務局会議 月2回 理事長、各施設管理者  
法人運営を中心に実施

#### (5) 家族会

法人全体家族会を行ない法人運営についてや写真を交えながら各事業所の取り組み、新任職員の紹介などをしました。また築23年のなかまの家建物の改修について家族会が中心になって東久留米市議会へ働きかけました。

#### (6) 研修

通所職員は、リモート研修も含め所属施設長と相談しながら最低2日の研修に参加しました。(別紙)生活寮は専門家を招き様々な視点から実践を振り返りながら生活の場での利用者支援の在り方について学習する予定でしたが、訪問看護師等から医療的ケアについて日常的に学ぶことができました。

法人研修では、感染状況を見ながら対面やリモートでの研修を開催します。

1) 新人職員研修：①法人の歴史と理念と目指すもの②法人職員として大切なこと③各事業所のとりくみと大切にしていること④現場見学または実習の講座を行いました。

2) 法人職員研修：虐待防止委員会と連携し、権利擁護について各事業所で学習しました。

3) 虐待防止研修：東京都の「権利擁護と虐待防止研修会」にのぞみの家、活動センターかなえが参加し、法人全体でも全員のDVDの視聴やレポート作成に取り組みました。

4) 担当者会研修：

5) 法人内施設長研修：取り組みができませんでした。

#### (7) 施設整備

1) のぞみの家

ア. 車両

事業総額 3,980,000円(税込)

イ. 床工事

事業総額 470,000円(税込)

ウ. 防水工事

事業総額 550,000円(税込)

2) 活動センターかなえ

ア. トイレ・扉等修繕工事

事業総額 6,270円(税込)

※トイレドアのストッパーの修理のみ 部屋ドア修理は業者との調整がつかず未実施

イ. プロジェクター購入

事業総額 119,000円(税込)  
(一部 共同募金会より助成)

ウ. 車両

事業総額 3,410,500円(税込)  
(東京都馬主協会より1,900,000円助成)

3) なかまの家

ア. 配膳室のガスコンロ

事業総額 97,900円(税込)

イ. 備付棚の扉・ロッカーの修繕

事業総額 128,700円(税込)

ウ. 配膳室の手洗い場設置工事は実施しませんでした。

3) 生活寮

ア. うみエレベーター修理工事

事業総額 300,300円(税込)

イ. そらエレベーター修理工事

事業総額 300,300円(税込)

ウ. うみそらフェンス修理工事

事業総額 49,500円(税込)

4) このみ

ア. 活動室壁塗り替え工事

事業総額 1,000,000円(税込)

**(8) 職員採用**

令和3年度は1名の中途採用者を迎えることが出来ました。今後は新規卒業者の計画的な採用をしていきます。

現在、専門的職業として看護師・PT・栄養士を非常勤として採用していますが、現場の意見を反映しながら採用をしていきます。

**(9) 担当者会**

1) 防災環境

ア. ヒヤリハット・事故報告書の共有

各事業所から報告されるヒヤリハットや事故報告書の内容を通して、各事業所での防止策の検討を積極的に行うことができました。

イ. 防災について

各事業所が火災や地震など実践的な避難訓練を消防署とも連携しながら実施することができました。また発電機や備蓄品、持ち出し袋など、保管場所や使用方法など各事業所で引き続き確認・周知していきます。

ウ. 環境について

安心・安全な環境づくりを目指し、担当者が施設内を点検することができま

した。今後は定期的な点検や不要備品の処分など管理者と相談しながら施設内整備を行うことが必要です。

## 2) 健康衛生

### ア. 情報の共有について

生活寮の担当者や専門家である栄養士等を加え、利用者の姿を捉えながら情報の共有や具体的な取り組みの報告や提案をしました。

### イ. 保健衛生について

各事業所共通の書籍を購入し毎回読み合わせを通して、担当者が感染症対策の正しい知識を理解できるように努めました。

### ウ. 健康について

「高齢化」「口腔ケア」「食事提供」「医療」について各事業所での取り組み状況や課題を出し合い、お互いの事業所での支援につながるよう情報交換をしました。

## 3) 車両送迎

### ア. 車両購入について

車両管理表を基に入れ替えが必要な車両を確認しました。今年度は赤い羽根共同募金と東京馬主協会の助成金の申請が通り、2台のハイエースの入れ替えを行いました。リースでは軽自動車を入れ替えました。

### イ. 車両整備について

各施設で1年点検対象車を決め、1年点検を行いました。点検したことで走行中の整備不良などはなく、安全に運行する事ができました。

## 4) 広報部会

### ア. ホームページ掲載について

広報誌発行と同時にホームページ掲載をおこないました。作品展の様子を動画で掲載することもでき、新たな発信の方法が広がりました。

### イ. 内容の充実について

感染状況に応じてウェブ会議を活用しながら部会開催して内容を考えることができました。ご家族の話を記事にした「ファミリーレター」を新たに掲載することができました。折り作業も各事業所で協力しながら進めることができ、法人全体で作り上げる広報誌となりました。

## 5) 虐待防止委員会

### ア. 委員会を機能させます

年に3回、委員会を開催して報告書を用いて各事業所の取り組みを報告してもらいました。虐待防止や守秘義務についての基本的理解を進めていくことができました。

## 第2 事業別計画

### 1. 日中支援部門

#### (1) 重点課題

- 1) 喫茶事業は新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、利用者の働く場と地域の方々の憩いの場として継続して開店、営業することができました。お客様からも「密になってなく安心できる」評価されています。
- 2) 利用者の健康管理や身体機能保持のため看護師をはじめ OT や PT の安定した配置を行うことができました。
- 3) 各担当者会を軸に利用者の安全や安心を保障できる環境づくりを進めます。生活寮やこのみにも情報提供や各会議に参加できるように工夫してきました。さらに参加率が高まる工夫が必要です。
- 4) 職員は障害のある人の発達の課題や障害特性、加齢にともなう配慮について学ぶため、積極的に研修の参加や報告を行うことができました。
- 5) 各事業所の施設長とサービス管理責任者は法人監事のアドバイス等を元に法人利用者の状況や活動内容の確認など常に事業所課題を共有し実践を高めていけるようくふうすることができました。

#### (2) 各事業所の計画

##### 1) のぞみの家

###### ア. 運営状況

- (ア) 開所日数 240 日
- (イ) 在籍者数 1日平均 22.85 人
- (ウ) 平均工賃 月1, 701円 賞与10,000円
- (エ) 工賃総額 工賃総額758,545円

###### イ. 利用者の状況 (2022年3月31日現在)

###### (ア) 人数構成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
チャレンジ班	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
たんぽぽ班	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
おひさま班	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24

###### (イ) 居住地別

	東久留米	東村山	杉並	合計
チャレンジ班	5	1	1	7
たんぽぽ班	6	2		8
おひさま班	8	1		9
合計	19	4	1	24

## (ウ) 生活拠点別

	自宅 (家族同居)	自宅 (1人暮らし)	生活寮	合計
チャレンジ班	1	1	5	7
たんぽぽ班	2		6	8
おひさま班	4		5	9
合計	7	1	16	24

## (エ) 年齢構成

	性別	～	～	～	～	～40	～	～	51	計
		20	25	30	35	45	50	～		
チャレンジ班	男			1			1	1	1	4
	女					1			2	3
たんぽぽ班	男					2	1	1		4
	女				1		3			4
おひさま班	男				1		1			2
	女			1	2	2		1	1	7
合計				2	4	5	6	3	4	
平均年齢		男性 43.5歳			女性 42.4歳			合計 42.8歳		

## (オ) 障害区分

## ア) 手帳

身体障害者 及び 知的障害者		愛の手帳 (知的障害)						
		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体 障害者 手帳	1種	1級	4	6		3	2	15
		2級	1	2			1	4
		3級		1				1
		4級		1				1
	2種	5級		2				2
	なし					1		1
	合計		5	12		4	3	24

## イ) 障害支援区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	合計
チャレンジ班	4	2		1			7
たんぽぽ班	8						8
おひさま班	9						9
合計	21	2		1			24

障害・疾患 (医療的ケア) の内容

脳性まひ 体幹機能障害 知的障害 視力障害 聴力障害 言語障害  
てんかん レノクス症候群 小頭症 脳梗塞 捻転ジストニア レット症候群  
自閉症 脊髄損傷 その他

(カ) 車いすの使用状況

利用状況		チャレンジ班	たんぼぼ班	おひさま班	合計
常時	自力移動可	3			3
	自力移動不可	1		8	9
状況により	外出時使用	1	5	1	7
	その他				
独歩	要介助		3		3
	独歩	2			2
合計		7	8	9	24

ウ. スタッフの状況 (2022年3月31日現在)

(ア) 各会議・打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	施設長、正規職員、非常勤職員	毎月1回
現場会議	正規職員、非常勤職員	毎週1回
アセスメント モニタリング 会議	サービス管理責任者、主任、担当職員	随時
班会議	サービス管理責任者、各班主任、各班担当職員	毎月1回
保健・車両・防災	看護師(保健衛生のみ)、担当職員	毎月1回
寮との連携会議	施設長、サービス管理責任者	毎月1回

(イ) 運営体制 (述べ人数)

職名	常勤	非常勤	パート	委託	合計	備考
施設長	1				1	
サービス管理責任者	1				1	
事務	1		1		2	
支援員	5	3	1 3		2 1	
調理員		1 (栄養士)	1		2	
運転手				4	4	
嘱託医		1			1	3ヶ月1回
看護師				1	1	月1回
理学療法士				1	1	月1回
会計				1	1	月1回以上
労務士				1	1	適宜
清掃				1	1	年6回
合計	8	5	1 5	9	3 6	

(ウ) 1日の体制

職名		常勤	非常勤	パート ①	パート ②	パート ③	パート ④	合計	
施設長		1						1	
事務		1		1				2	
サービス 管理責任者	チャレンジ班	1	1					2	
	たんぼぼ班		1	2		2		1	5
	おひさま班		3			4			7
給食						2		2	
運転手							3		
合計		8	3	1	6	2	3	2 0	

※パート①② (事務・実践) : 9時30分~17時00分、8時30分~、10時~

パート③ (給食) : 8時30分~14時15分

パート④ (運転) : 朝、帰りの送迎時間のみ8時30分~10時 15時30分~17時

## エ. 重点課題

(ア) 会議での決定事項を実行していきます。

「決める」「実行する」「振り返る」を大切にしながら会議を運営してまいりました。業務分担に沿って職員一人一人が責任をもって業務を遂行することができました。

(イ) 感染症予防をおこないながら活動を組み立てます。

日中部門の責任者会議で感染予防策を共有しながら実践することができました。一つ一つの予防策の目的や根拠を確認しながらおこなってまいりました。その上で新たなイベント（屋上いちご狩り）を実施することができました。

(ウ) 支援方針の共有をおこないます。

常勤職員・非常勤職員・パートスタッフと個別支援計画を共有する場を設けてまいりました。特に感染状況や対策についての情報は引継ぎ簿を中心に小まめに情報を発信して共有してまいりました。

(エ) 環境整備をおこないます。

ヒヤリハット、事故報告を再発防止のために役立ててまいりました。施設内の環境ラウンドをおこない地震対策や避難経路の再確認をおこないました。

## オ. 各班の重点課題

(ア) チャレンジドリームズ班

ア) 人とのつながりを通して社会参加します。

コロナの状況を考慮しながら物品の配達時は感染対策を行い、直接お客様のもとへ配達ことができました。またたんぽぽ班で回収を行っている近所へのケーキ販売に向けてチラシを配布しました。販売地域の拡大、以前販売していた先へのケーキ販売の再開を検討していきます。

イ) 個々の力が発揮できるような仕事内容と仕事環境を考えます。

活動センターかなえでの実習を行いました。そこで取り組んだ作業を引き続き活動で取り組むことができている。その活動を通して他の利用者の意欲へ繋がっています。そこで作られた作品を自主製品として出せるように取り組んでいきます。個々が安心して作業できるように部屋の真ん中にパーテーションを置き、各自が集中できる環境を作りました。今後もそれぞれが作業しやすい環境を考えていきます。

(イ) 元気なたんぽぽ班

ア) わかりやすい活動を通して、主体的な姿を引き出します。

絵カードを利用した活動の提示を継続しました。またストレッチや足浴をメインとしたリラクソの時間と、散歩やパック回収といった外に出て身体を動かす活動を設け、メリハリをつけて生活できました。

イ) 創作活動を通して、個々の力を発揮します。

和紙作りは継続して行い、色紙をメインに商品として販売しました。作品展でも和紙を使った作品を展示しました。和紙作り以外でも、牛乳パックを使っ

たジェンガや魚釣りゲームといった遊具を自作しました。

(ウ) おひさま班

ア) 利用者主体の活動作りをおこないます。

利用者の表情や反応をよく見て皆で相談しながら活動が決められるように自治会を開催しました。活動内容を写真や絵カードで用意して選ぶことができるようにしたことで自分で選ぶ・決めるという過程を大切にしながら利用者主体の活動づくりが行えました。今後も見通しをもてるよう活動作りをしていきます。

イ) 24時間の生活を視野に入れた健康管理、機能維持に努めます。

日々変化のある健康状態をていねいに観察し、家庭、寮と情報を共有しながら健康維持に努めました。必要に応じ、主治医、PTなど専門家と連携しました。機能維持を目的に定期的なストレッチや体重測定を行う事で感染予防、体調不良の早期判断が行えました。引き続き健康管理をしていきます。

カ. 仕事

(ア) 自主製品 売り上げ 124,880円

多くの人に仕事内容を伝えられるよう、物品販売時のチラシ作りに力をいれました。物品販売や作品展にて販売を行いました。

(イ) ケーキ 売り上げ 356,458円

新型コロナ感染状況を確認しながらケーキ製造内容を利用者主体で検討し予定作成をしました。地域での注文販売にむけてチラシ作成、配布を行いました。注文はありませんでしたが、引き続きチラシの工夫や販売内容を考えていきます。カフェてんへの納品も継続しています。

(ウ) 喫茶 売り上げ 0円

新型コロナ感染拡大によりコーヒー等の販売が行えませんでした。

(エ) お茶・ふきん 目標金額 117,500円

利用者主体で在庫確認、注文を行いました。時期に応じたお茶を仕入れ、物品販売時や作品展にて販売を行いました。

(オ) おむつ 売り上げ 1,214,740円

担当者と連携し、お金のミスが無いように取り組みました。

(カ) データ入力・チラシ配り 売り上げ 38,347円

入力の下請けの仕事を貰い、個々のペースに合わせて作業を行いました。また、11月にチラシ配りの下請けの仕事を貰い、全班で手分けしてポスティングを行いました。

(サ) リサイクル久留店 売り上げ 1,440円

新型コロナ感染防止のため、バザー品回収、リサイクル久留店の開催は中止しました。

(キ) きょうされん物品販売 売り上げ 2,068,848円

新型コロナ感染に配慮しながら利用者と一緒に配達、受け渡しを行いました。

また入力作業や電話対応も利用者中心で行いました。

(ク) 資源回収 売り上げ 7,400円

のぞみの家の近所の家庭へ回収先を拡大しました。定期的な回収に繋がられるようにチラシに工夫を行いました。また、同じ地域のパン屋さんへの回収へもおこないました。今後も回収できるように丁寧にやり取りを続けます。

キ. その他の活動

(ア) 機能訓練

理学療法士と相談し、個人の体の変化に合わせたストレッチプログラムを作成しました。周知をし、日常的にストレッチを行い、機能維持に努めました。

(イ) 給食

ハサップに基づいた衛生管理及びスチームコンベクション調理で食形態の工夫をおこないました。食洗機や炊飯器等の調理器具の買い替えをして作業効率を高めました。

担当者会議では、各事業所での食事形態を把握することも出来ました。

(ウ) 旅行

感染症対策から旅行代理店の協力のもと、施設内でのいちご狩りイベントを開催しました。大きな混乱なく、楽しむことができました。

(エ) 作品展

地域、社会への発信を広げ、活動の積み重ねの発表の場としました。各班で役割を分担し、利用者主体で開催しました。

(オ) 地域行事

特別支援学校の祭りはありませんでしたが、物品販売やケーキ販売を通して地域社会との関わりを持ちました。

(カ) 会議

内容や参加者を明確にし職員会議、現場会議、班会議を実施しました。決定事項の振り返り、職員の意見交換を大事にしました。

(キ) 実習生

介護福祉士・社会福祉士の大学生を受け入れました。実習時間を短縮したり、感染対策を行いながら実習を行いました。社会福祉士の実習生には実際に個別支援計画を立ててもらい、職員で振り返りを行いました。

介護等体験は新型コロナ感染拡大により中止になりました。

(ク) ボランティア

感染に気を付けながら定期的にボランティアさんに来ていただきました。

(ケ) 研修

研修報告を全職員で確認しました。実践に活かした振り返りが行えなかった為、今後は定期的に報告を行い振り返りと共に実践に活かせる工夫を考えていきます。

ク. 消防報告

消防署と連携しながら、消防訓練を行いました。また地震を想定した定期的な訓練も行いました。

ケ. 活動の報告

(ア) 1日

時 間	おひさま班・元気なたんぽぽ班・チャレンジドリームズ班	スタッフ
8 : 3 0		朝礼
8 : 4 0		送迎開始及び受入れ準備
9 : 0 0	受入れ	活動支援
10 : 0 0	各班で朝の会・ラジオ体操 室内作業 外作業 (休憩)	
	室内作業 外作業	
1 2 : 1 5	昼食・休憩	昼食支援
1 3 : 3 0	チャレンジドリームズ班 仕事開始	活動支援
1 4 : 0 0	おひさま班・元気なたんぽぽ班 活動開始	
	室内作業 外作業	
1 5 : 0 0	帰りの会	
1 6 : 0 0		送迎 掃除
1 7 : 0 0		終礼

(イ) 1週間

	月	火	水	木	金
午前	資源回収 和紙作り 絵画 売上計算 ケーキ作り	資源回収 和紙作り 絵画 売上計算 ケーキ作り	資源回収 和紙作り 絵画 売上計算 ケーキ作り	資源回収 和紙作り 絵画 売上計算 ケーキ作り	レク (月1回は デリバリー ランチレク)
午後	ストレッチ ケーキ作り ダンス	ストレッチ ケーキ作り ボーリング	ストレッチ ケーキ作り トランポリン	自治会 ケーキ作り ボールプール	

(ウ) 1年間

	のぞみ内 行事	地域行事
4月	きょうされん 春の物品販売	
5月		
6月		
7月	きょうされん 夏季物品販売	
8月		
9月		いのちかがやけ作品展
10月		
11月	きょうされん冬季物品販売	
12月		
1月	のぞみの家作品展	
2月	きょうされんバレンタイン物品販売 いちご狩りイベント	
3月	きょうされんホワイトデー物品販売 がんばろう会 (のぞみ屋外で焼肉)	

## 2) 活動センターかなえ

### ア. 運営状況

(ア) 開所日数 238日

(イ) 在籍者数 1日平均24.2人

(ウ) 平均工賃 月 1,600円 賞与 10,000円

(エ) 工賃総額 工賃総額 831,560円

### イ. 利用者の状況 (2022年3月31日現在)

#### (ア) 人数構成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
なのはな班	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
だるま班	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
ちゅーりっぷ班	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
スマイル班	7	7	7	7	7	7	7	7	8	7	7	7
合計	26	26	26	26	26	26	26	26	27	26	26	26

#### (イ) 居住地別

	東久留米	他市	合計
なのはな班	5		5
だるま班	7		7
ちゅーりっぷ班	6	1	7
スマイル班	7		7
合計	25	1	26

#### (ウ) 生活拠点別

	自宅 (家族同居)	生活寮	合計
なのはな班	3	2	5
だるま班	4	3	7
ちゅーりっぷ班	6	1	7
スマイル班	4	3	7
合計	17	9	26

## (エ) 年齢構成

	性別	～	～	～	～	～	～	～	51	計
		20	25	30	35	40	45	50	～	
なのはなグループ	男		1			1			1	3
	女					1			1	2
だるま班	男		1	1	1	3				6
	女		1							1
ちゅーりっぷ班	男		1	1				1	1	4
	女	1	2			1				4
スマイル班	男				1			1		2
	女	1		1		1			1	4
合計		2	6	3	2	7	0	2	4	26
平均年齢		男性 36.6歳			女性 31.3歳			合計 34歳		

## (オ) 障害区分

## ア) 手帳

身体障害者 及び 知的障害者		愛の手帳（知的障害）						
		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体 障害者 手帳	1 種	1級		1	1			2
		2級		1				1
		3級		1				1
		4級						
	2 種	4級		1				1
	精神			1				1
	なし		1	4	5			20
	合計		1	8	7			26

## イ) 障害支援区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	合計
なのはなグループ	1	3	1				5
だるま班	6	1					7
ちゅーりっぷ班	3	3	1				7
スマイル班	2	5					7
合計	12	8	5				26

## 障害・疾患（医療的ケア）の内容

知的障害 視力障害 聴力障害 自閉症 ダウン症 精神障害 てんかん レノックス症候群 脳性マヒ

による体幹機能障害 ルビンスタイン・タイビー症候群 動脈管開存症 他

(カ) 車いすの使用状況

利用状況		なのはなグループ	だるま班	ちゅーりっぷ班	スマイル班	合計
常時使用	自力移動可					
	自力移動不可					
状況により	外出時使用			1	2	3
	その他					
独歩	見守り介助	4	7	4	5	20
	独歩	1		2		3
合計		5	7	7	7	26

ウ. スタッフの状況 (2021年3月31日現在)

(ア) 各会議・打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	施設長、正規職員、非常勤職員	毎月1回
アセスメント モニタリング会議	施設長、サービス管理責任者、主任、担当職員	週1回
各班会議	サービス管理責任者、各班主任、各班担当職員	週1回
寮ケース会議	施設長、サービス管理責任者	2ヵ月1回
リーダー会議	施設長、サービス管理責任者	週1回

(イ) 運営体制 (述べ人数)

職名	常勤	非常勤	パート	委託	合計	備考
施設長・サビ管	1				1	
事務		1	2		3	
支援員	5	3	18		26	
運転手			1	1	2	
嘱託医		1			1	4ヶ月1回
看護師			1		1	隔週
会計				1	1	月1回以上
栄養士		1			1	週に1回
労務士				1	1	適宜
清掃			1	1	2	毎日
合計	6	6	23	4	39	

(ウ) 1日の体制

職名	常勤	非常勤	パート ①	パート ②	パート ③	合計
施設長/サービス管理 責任者	1					1
事務/全体		1	2			3
なのはなグループ	1			2		3
だるま班	3	1		3		6
ちゅーりっぷ班 (喫茶含む)	1	1		3		5
スマイル班	1	1				2
運転手					2	2
合計	7	4	2	8	2	22

※パート① (事務)：8時30分～15時00分、

パート② (実践)：8時30分～16時30分、9時～17時、9時30分～  
10時～15時30分

パート③ (運転)：朝、帰りの送迎時間のみ8時30分～10時 15時30分～17時

## エ. 重点課題

(ア) 今年度より、班を増やして一人一人の利用者が安心して通所できることを大切にてとりくみを進めました。

4月に1名の入所があり、年度内にもう1名の受け入れを行いましたがお本人の意向で退所になりました。班の構成人数が増えてきているため、3班から4班編成にしたことで落ち着いてそれぞれのペースで活動をすることができました。

(イ) 常勤スタッフを2名採用しました。

(ウ) ちゅーりっぷ班を中心に喫茶で働くことができる機会を増やすことができました。

(エ) 車両の入れ替えをします。

送迎や活動で使っているハイエースの走行距離が110000kmになります。昨年度、修理箇所も多くなってきたので、東京都馬主協会から車両購入のために助成金をいただきハイエースの入れ替えを行うことができました。

## オ. 各班の重点課題

(ア) なのはなグループ

ア) 落ち着いて活動できる環境をつくります。

作業室での活動や外活動を行っていく中で周りの環境により、気持ちの切り替えが難しい利用者がいます。活動内容や場所など環境を変えることで落ち着いて活動できるよう、環境整備を意識して支援を行いました。

イ) 創作活動を充実させていきます。

週の活動の中に創作を定期的に取り組んでいます。作品展にも応募をし、販売会では絵画が売れるなど成果も出てきています。描きたいものを筆やブラシを使って思いっきり描くこと、季節を感じながら描くことなどを大切に一年間取り組みました。引き続き班の活動の一つとして定期的に取り組んでいきます。

ウ) 健康の維持・改善 身体機能の維持・改善を図ります。

活動の中でウォーキングを増やし、定期的に身体を動かす時間を作るよう支援しました。また、OTにストレッチを行ってもらい、一年を通して一人ひとりの利用者の身体の様子や変化、状態に合った内容の見直しなど確認しながら取り組むことが出来ました。

エ) 昼休みはゆっくりと身体を休めます。

外を歩く、室内でベッドを使って身体を伸ばすなど一人ひとりに合った過ごし方を考え、落ち着いて過ごせるように支援しました。

(イ) だるま班

ア) 自己表現できる活動として創作活動を充実させます。

利用者の前に画材を並べて取るなどして、利用者本人が選ぶことを大切に取り組みました。その結果より意欲的に創作活動に取り組む姿が見られました。

イ) 『グッズデザインコンクール』『ぴゅああーと展』などの作品展に応募します。また発表する場として今年度も『作品展』を開催します。

コロナ対策をし、作品展を開催する事ができました。地域住民や関係者など、多くの方々に作品を見て頂きました。

ウ) 和紙作りの作業を分担しながら取り組みます。

牛乳パックちぎりから紙すきまでの工程を、班全体で取り組みました。おはながみを使用して色が付いた和紙は付箋やメモ帳などに、白い和紙はハガキや年賀状に加工して販売会で販売しました。

エ) 積極的に身体を動かす活動に取り組みます。

全体的に体重が増加傾向にあります。広報配りや空き地整備以外にも休み時間のボール遊びや室内活動中の気分転換でウォーキングに取り組むなどして身体を動かす事が出来ました。

オ) 有意義に昼休みを過ごします。

パズルやボール、画材、ベッドなどを用意して利用者一人一人が有意義に過ごせる環境設定、見守り支援を行いました。

カ) プール

新型コロナウイルス感染症の影響で実施することができませんでした。来年度に実施できるかの検討を行っています。

(ウ) ちゅーりっぷ班

ア) 仲間同士の関わりを大切にしながら、落ち着いて過ごせる環境をつくりま

す。  
新入所の利用者が増えました。利用者同士の交流を大事にし、和やかな雰囲気作りをしました。

イ) 新しい活動として、野菜作りに取り組みます。

屋上で野菜作りに取り組みました。夏野菜はナスやししとうなどを収穫することが出来ました。次年度は販売し収入に繋がります。

ウ) 自主製品を製作し、販売会を開催します。

手芸製品など、利用者と一緒に何を作るか決めていきます。今年は11月にマルフジ店頭で販売会を行いました。利用者も一緒に販売員として店番を行いました。

エ) 創作活動に取り組みます。

色画用紙を購入し、創作活動の時間を作り、絵の具やポスカ、クレヨンを使って絵を描きました。大きな画用紙にみんなで描く等、表現方法を工夫して行いました。

オ) 身体機能の維持・改善を図ります。

リハビリの先生や嘱託医などに健康面について相談しました。今年度は腰痛や、脳梗塞の後遺症のリハビリ等を行いました。又、歩行が不安定な利用者に対してアドバイスをいただき、ご家庭と連携しインソールを購入し、外履き内

履きともに着用するなどの具体的な改善を図りました。

カ) 有意義に昼休みを過ごします。

利用者それぞれが自分ペースで昼休みを過ごしています。利用者同士の会話を楽しむことも増えています。又、ベッドで休みたいという希望があり、多目的室にベッドを配置して、身体を伸ばすなど休息しています。

(エ) スマイル班

ア) 仲間同士の関わりを大切にしながら、落ち着いて過ごせる環境をつくりましました。利用者同士の交流を通して、新しい環境に慣れていけるよう和やかな雰囲気作りをしました。

イ) 新しい活動として、野菜作りに取り組みます。

ちゅーりっぷ班と一緒に野菜の水やりに参加しました。

ウ) 自主製品を作製し、販売会を開催します。

利用者に何を作りたいか希望を聞きながら手芸・さき織りに取り組みました。販売会では、製品を加工し販売しています。店番をスタッフと利用者で行ないました。

エ) 創作活動に取り組みます。

クレヨン・絵の具を利用し創作活動に取り組みました。

オ) 外活動に参加します。

ウォーキングや広報配り等、体を動かす時間を設けました。

カ) 身体機能の維持・改善を図ります。

専門家（医師・OT・看護師・栄養士など）と連携して利用者の健康維持に努めました。

キ) 有意義に昼休みを過ごします。

利用者同士の交流などを大切にしました。また、安全に過ごすことができるように見守り支援を行いました。

また、ストレッチをして身体を動かす時間を作っている利用者も居ました。

カ. 仕事

売り上げ目標金額と取り組み内容

(ア) 資源回収・おろし 収入 140,832円

新たな回収先として活動センターかなえの近隣住宅にチラシ配布を行い、毎週の回収先を増やすよう取り組みました。半年ほど実施し、今では回収日に定期的に資源を出して協力してくれる家庭が増えてきています。その一方で、資源単価の低下・回収量の減少により目標の金額には届くことが出来ませんでした。来年度はさらに回収先を広げられるよう工夫していきます。

(イ) 市報配布 売り上げ 364,037円

新たに建設された住宅や取り壊された住宅などが確認されています。職員間で情報共有や地図への色付けなどの工夫を行いました。利用者もスタッフと一緒に市報配布を行い、交通ルールを守りながら1軒1軒確実に配布が出来まし

た。

(ウ) 自主製品 売上金額 95,600円

マルフジの店頭を3日間お借りして、販売会を行いました。地域の方々やご家族の皆さんに作品を見て頂く機会になりました。利用者の皆さんは、販売会に向けて日々、手芸・和紙作り・創作に取り組んでいます。

(エ) 空き地の整備 売上金額 158,400円

市より公有財産清掃業務委託を受け、空き地内の清掃や除草を行いました。

(オ) 物品販売 売上金額 1,186,600円

きょうされん物品販売のカタログを利用し、カタログの配布や注文品の配達をするなど、色々な活動に利用者も関わりながら年4回取り組むことができました。前年度(売上1,053,059円)に比べて今年度の売上が133,601円増加しました。今年度はカタログ配布の地域を資源回収している地域やウォーキング等で通っている地域など、活動センターかなえの周辺の地域に絞って配布しました。また、いつも注文して下さる方に知り合いを紹介して頂けるように声掛けを行ったことで新規の注文も増えました。また、注文をFAXで頂いたお客様には間違いがないか確認の電話をして、より丁寧な対応も行いました。今後も継続的に利用して頂けるよう取り組みます。

今年度もコロナ禍の中での対応となりましたが、配達など感染予防に気を付けて行うことが出来ました。

(カ) 喫茶

日々の喫茶での仕事に加え、週に二回午後活動でメニュー拭きや店内の掃除の仕事に取り組みました。

キ. その他の活動

(ア) 調理・レクリエーション

レクは月に1回、調理活動は班ごとに3ヶ月に1回ローテーションで取り組みました。新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、感染対策をしながら室内レク(ポッチャやゲームなど)や屋外レクに取り組みました。

(イ) 旅行

2020年より流行している新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、今年度は班ごとの日帰り旅行を予定していましたが、感染拡大が続いたため利用者の健康と安全を最優先に考え実施することを控えました。

(ウ) クラブ活動「フラワーセラピー」

2か月に一回実施予定でしたが、コロナ禍の為材料の調達やボランティアの先生の来所などが困難となり、今年度はクリスマスシーズンに1度だけ実施することとなりました。今後も継続できるよう先生とも相談していきます。

(エ) 散歩・ウォーキング

コロナ禍の中、散歩やウォーキングは外の空気を吸いのんびりと歩く事で気分転換につながりました。また、ウォーキングは一定のペースで歩く事で体を

動かし体力維持をねらいました。

(オ) 給食

家庭や栄養士と相談し昼食弁当の量を調整したり、咀嚼が難しい利用者の食形態を変更するなどの配慮を行いました。また利用者の要望を取り入れ、月に二回、カレーや中華丼など栄養士と相談して給食を作って提供しました。

ク. 消防計画

避難訓練は、毎月一回実施しました。地震・火災訓練を色々なスタッフが役割を代えながら行うことができ、年に一回の総合訓練は消防署に来所してもらい地震想定で実施しました。また、半年に一度の非常食のインスタント麺を食べる訓練も例年通り実施し、定着してきました。

ケ. 活動の報告

(ア) 1日

時 間	なのはなグループ・だるま班・ ちゅーりっぷ班・スマイル班	スタッフ
8：30～ 8：40～	受け入れ開始	朝礼 送迎開始、受け入れ支援 準備、会議等
10：30	朝の会・ラジオ体操 室内作業 外作業 (休憩) 室内作業 外作業	活動支援
12：00	昼食・休憩	昼食支援 片付け、活動準備
14：00	室内作業 外作業 (休憩) 室内作業 外作業	活動支援
15：00	帰りの会	
15：30	送迎	送迎、片付け
16：00	利用終了	会議
16：50		終礼

(イ) 1週間の主な予定

	月	火	水	木	金
午前	外作業 資源回収 室内作業 ウォーキング	外作業 室内作業 ウォーキング	外作業 資源回収 室内作業 ウォーキング	外作業 室内作業 ウォーキング	外作業 室内作業 ウォーキング
午後	外作業 資源おろし 室内作業 創作 ウォーキング	外作業 創作 ウォーキング ※自治会	外作業 資源おろし 室内作業 創作 ウォーキング	外作業 室内作業 創作 ウォーキング Cafe てん外掃 除	外作業 室内作業 創作 ウォーキング

- ・外作業…広報(チラシ)配布、空き地整備
- ・室内作業…和紙製作、さきおり、手芸、広報(チラシ)折り
- ※自治会…週1回実施 ※調理…月1回実施

(ウ) 1年間の主な予定

月	事業所内の行事	地域などの行事
4月	歓迎会(規模を縮小して開催)	
5月		
6月	利用者健康診断(中止) なのはなグループ日帰り行事(中止)	
7月	だるま班日帰り行事(中止) きょうされん夏季物品販売	
8月	きょうされんデザインコンクール作品応募 夏季休業	
9月	ちゅーりっぷ班日帰り行事(中止)	いのちかがやけ作品展
10月	新入所者・成人を祝う会(法人全体)(中止) 「わたしたちの作品展」開催 スマイル班日帰り行事(中止)	きょうされん全国大会
11月	きょうされん冬季物品販売 手づくり品販売会開催	
12月	ぴゅああーと展作品応募、クリスマス会、 冬期休業	
1月	きょうされんバレンタイン物品販売	
2月		ぴゅああーと展(中止)
3月	きょうされん春季物品販売、ボーナス支給	

- ・毎月1回…各班レクリエーション、体重血圧測定、避難訓練、給料日など

### 3) なかまの家

#### ア. 運営状況

(ア) 開所日数 239日

(イ) 在籍者数 1日平均13.5人

(ウ) 平均工賃 月2,000円 賞与19,000円

(エ) 工賃総額 工賃総額 602,000円

#### イ. 利用者の状況 (2021年3月31日現在)

##### (ア) 人数構成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
さくら班	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
りんご班	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
合計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14

##### (イ) 居住地別

	東久留米市	西東京市	清瀬市	合計
さくら班	7	1		8
りんご班	5		1	6
合計	12	1	1	14

##### (ウ) 生活拠点別

	自宅 (家族同居)	自宅 (1人暮らし)	生活寮	合計
さくら班	3		5	8
りんご班	5		1	6
合計	8		6	14

(エ) 年齢構成

	性別	～20	～25	～30	～35	～40	～45	～50	51～	計
	さくら班	男					1	1	2	1
女					1			2		3
りんご班	男				2		1	2		5
	女						1			1
合計					3	1	3	6	1	14
平均年齢		男性 43.4 歳			女性 43 歳			合計 43.2 歳		

(オ) 障害区分

ア) 手帳

身体障害者 及び知的障害 者		愛の手帳（知的障害）						
		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体 障害 者 手 帳	1 種	1級		2	1			3
		2級		1				1
		3級		1				1
	2 種	2級						
		3級		1				1
		4級						
	なし			8				8
合計			13	1			14	

イ) 障害支援区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	合計
さくら班	6	1	1				8
りんご班	6						6
合計	11	1	1				14

障害・疾患（医療的ケア）の内容

知的障害 視力障害 聴力障害 てんかん 自閉症 ダウン症  
 第五染色体異常症 脳性マヒによる体幹機能障害 その他

(カ) 車いすの使用状況

利用状況		さくら班	りんご班	合計
常時使用	自力移動可			
	自力移動不可		2	2
状況により 使用	外出時使用	1		1
	その他	1		1
独歩	要介助	6	4	10
	独歩			
合計		8	6	14

ウ. スタッフの状況 (2021年3月31日現在)

(ア) 各会議・打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	施設長、全職員	毎月1回
支援会議	サービス管理責任者、職員、	毎月1回
活動会議	主任、職員	毎月1回
リーダー会議	施設長、主任、職員(ローテーション)	週1回
健康・防災・車両 きょうされん	各担当職員	毎月1回
寮支援者会議	サービス管理責任者、担当職員、寮職員	2ヶ月1回
モニタリング会議	サービス管理責任者、担当職員、職員	随時

(イ) 運営体制 (述べ人数)

職名	常勤	非常勤	パート	委託	合計	備考
施設長	1				1	
サービス管理責任者	1				1	兼務
事務		1			1	
支援員	4	1	7		13	
運転手				1	1	委託
嘱託医		1			1	3ヶ月1回
看護師		1		1	2	1ヶ月2回
作業療法士				1	1	1カ月に1回
栄養士		1			1	1週間1回
会計				1	1	月1回以上
労務士				1	1	適宜
清掃				1	1	年3回
合計	5	5	7	6	23	

※施設長・サービス管理責任者は兼務

(ウ) 1日の体制

職名		常勤	パート	委託	合計	
施設長		1			1	
事務		1			1	
サービス 管理者	さくら班	1	3	2	1	5
	りんご班		2	2		4
給食				1	1	
運転手				1	1	
合計		8	5	2	14	

※パート：8時30分～、9時～、～16時、～16時30分、～17時、状況によっていろいろ、

※委託 給食：提供・運搬、

※委託 運転手（運転）：朝・帰りの送迎のみ 8時30分～10時、15時30分～17時

## エ. 重点課題

(ア) 感染症対策を実施し、利用者やスタッフの安全を第一に活動します。

感染状況によって活動の人数制限や換気・消毒・手洗いなど環境の予防対策も実施しました。また研修などによって得た最新の情報や知識をもとに安全第一に活動しました

(イ) 給食をおいしく安全に食べられるようにしていきます。

食具や食形態の見直しを行いました。また配膳の人員確保や温かく食べやすい給食が提供できるよう試食など行い検討しました。

(ウ) 活動は目的を明確に、業務分担の担当者が中心になって実施します。

業務担当が中心になり年間計画と支援のガイドラインを作成し中間の振り返りをしました。作成した支援のガイドラインを共有化のために活用することが課題です。

(エ) 職員の研修の確保をします。

感染症対策のためオンライン研修ですが、可能な限り計画的に受講しました。感染症については最新の正しい情報を得るために随時研修を受講しました。

## オ. 各班の重点課題

(ア) 感染症拡大防止のため、班ごとではなく更に小さい集団で活動しました。活動ごとのガイドラインを活用し、支援の内容・方法を組織的におこなえるようにします。また定期的に更新をおこないます

支援方法を共有するため活用しました。3ヶ月に1回の定期的な見直しが十分に実施できませんでした。来年度は更新期間を検討し定期的な見直しをしていきます。

(イ) 積極的に体を動かし気分転換します。また、嘱託医やPTなどの専門職と連携し、身体機能の維持やリラクスのためのマッサージ等もおこないます。

積極的に散歩の時間を設け身体を動かしました。また利用者の身体の変化があった場合には嘱託医に相談したり、作業療法士にはマッサージ等の手順書を作成してもらい、ご家族や医療と確認した上で実施しました。

(ウ) 活動終了時には取り組んだ内容を発表しみんなで達成感を共有します。一人ひとりの取り組みの様子を発表しあい、拍手が出る場面や、「がんばったね」「すごいね」などと利用者から言葉が出る時もあります。引き続き来年度も行っていきます。

## カ. 仕事

### 売り上げと取り組み内容

(ア) 資源回収 売上 143,000円

回収先の方から声をかけていただいたり、利用者が挨拶をする姿などがあります。回収先の整理をしましたが曜日により大きなばらつきがあるため、来年度は調整を行なう必要があります。また回収してきた物が気になる利用者がいるため、来年度は目隠し用のカバーの購入します。

(イ) 缶つぶし 売上 ※資源回収に含まれる

アルミ缶の量が減っているためチラシを配布しましたが量のアップには繋がりませんでした。来年度缶つぶし機と回収してきた缶を入れるカゴのカバー、またカバーを固定するベルトの購入をします。

(ウ) パック整理・卸し 売上 12,000円

「整理」のパック拭き作業は、回収してきたパックが汚れている時があり不衛生なため、来年度からはパックをコンテナに移す作業をメインに取り組みます。また卸しは倉庫の様子を見ながら随時行いましたが、事前準備などあるため、来年度は「1カ月1回、第3木曜の午前」と固定にし取り組みます。

(エ) 市報配布 売上 306,000円

年間計画を作成し期限内に行なうことができました。選挙公報など予定のない配布については、改めてスケジュールを事前に確認するなど計画的に配布できるように取り組みます。

(オ) チラシ配り 売上 10,000円

チラシ配布の依頼があり取り組みました。期限内に終わるようにスケジュール作成、チラシの保管方法、情報の共有など来年度の課題です。

(カ) 自主製品 売上 36,000円

販売会…感染症拡大のため対面での販売ではなく、カタログを作成しお客様や関係者に配布し販売しました。

【手芸】 現在の自主製品「ビンオープナー」の売上アップのため、チラシを作成し配布しました。販売会に向けて刺繍でカバンや巾着袋を作成しました。また新しい製品化に向けて「イラストボード織機」での小物入れの作成を試しています。来年度も引き続き行います。

【陶芸】 干支の置物や壁掛けの花瓶を作成し販売しました。カタログでの販売を行ない、お客様から注文を頂くことができました。

(キ) ボーナスイベントへの取り組み 売上 844,000円

昨年とほぼ同じ範囲にカタログ配布を行ないました。新規のお客様がありお客様として続けて注文していただいています。昨年と今年度2年間同じ地域に配布したので、今後は新しい地域への配布をしていきます。歩いて行ける地域への配布を検討します。

(ク) お茶・ペーパー・ふきんの注文・販売 売上 277,000円

お茶販売について、年間計画を作成し物品販売と共同でチラシを配布し取り組みました。新茶では販売エリアを拡げ新規のお客様が増えました。またペーパー・ふきんは、値段の検討、販売の目的や意義の振り返りを行ないました。来年度に反映していきます。

キ. その他の活動

感染症拡大防止のため「プール活動」「調理活動」は見合わせました。

## (ア) 自治活動

感染症の状況を見ながら給料渡しを年数回全員で行ないました。受け取ると笑顔になる人やすぐにスタッフに渡してしまう人など様々ですが、少しずつ定着しています。給料を渡す利用者をどのように決めるかは今後検討が必要です。

### (イ) 陶芸・創作活動

【陶芸】感染症拡大防止のため小集団で取り組みました。先生としっかりと向き合って取り組みました。必要があれば粘土・道具など購入します。作品の制作者名の記入を徹底していきます。

【創作】布のキャンバスに何度も描くなど、道具や環境を工夫し個々の持ち味を引き出す作品作りしました。新しい色の絵の具や布を購入し、表現方法の幅を拡げます。

### (ウ) ウォーキング

ウォーキングは密を避け感染予防対策を十分に行ないながら活動しました。季節を感じられ身体を動かし気分転換にもなる活動なので短い時間でも積極的に取り組みました。

### (エ) 手芸

クッション作りやイラストボード折り機を利用した小物入れにチャレンジしました。また手芸の作業が難しそうなお利用者は、針ではなく布を持ち、針を通した後布を引っ張るなど支援方法を工夫することで取り組む姿がありました。引き続き支援方法を工夫しながら新しい製品づくりに取り組みます。そのためにも材料の購入をしていきます。

### (オ) レクリエーション

感染症が蔓延していた期間は午後にレクリエーションを行ない、少しでも利用者が楽しみを持てるようにしました。感染症が落ち着いている期間は、2班に分かれ、公園に行くなど1日のレクリエーションを行ないました。今後も状況により内容の検討をしていきます。

月	1班	2班	3班	4班
4月	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園
5月	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園
6月	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園
7月	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園
8月	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園
9月	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園
10月	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園
11月	さくら班 小金井公園		さくら班 小金井公園	
12月	クリスマス会			
1月	さくら班		りんご班	

	小金井公園		小金井公園	
2月	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園	滝の城址公園
3月	※「旅行」の代わりに「ワクワク弁当」「おたのしみデザート」を実施したためレクリエーションはお休み			

(カ) 旅行

感染症拡大のため中止しています。感染症の状況をみながら対策を行ない、普段とは違うお弁当やデザートを購入し味わいながら食べました。

ク. 消防報告

毎月避難訓練や通報訓練を行いました。水害が発生した場合の情報について確認を行いました。引き続き定着するまで繰り返し訓練を行なっていく必要があります。

ケ. 活動の報告

(ア) 1日

時 間	りんご班・さくら班	スタッフ
8 : 3 0		朝礼
8 : 4 0		送迎開始
9 : 3 0	受け入れ開始	準備・会議等
10 : 0 0	朝の会・ラジオ体操 室内作業 外作業 (休憩)	活動支援
12 : 0 0	室内作業 外作業 昼食・休憩	昼食準備 昼食・昼食支援 片付け・休憩
13 : 3 0	室内作業 外作業 (休憩)	活動支援
15 : 0 0	室内作業 外作業 帰りの会	送迎
16 : 0 0	送迎	片付け・清掃・会議
17 : 0 0		終礼

(イ) 1週間

	月	火	水	木	金
午前	・外作業 ・室内作業	・外作業 ・室内作業	・外作業 ・室内作業	・外作業 ・室内作業	・外作業 ・室内作業
午後	・外作業 ・室内作業	・外作業 ・室内作業	・外作業 ・室内作業 ・自治会	・外作業 ・室内作業	・外作業 ・室内作業

- ・外作業…資源回収、広報配布、ウォーキング、缶つぶし、
- ・室内作業…広報折り、パック整理、創作活動、手芸、陶芸、  
マッサージ・ストレッチ

※プール・調理活動は新型コロナ感染症拡大防止のため中止。

(ウ) 1年間

月	事業所内の行事	地域などの行事
4月		
5月	※新茶販売	
6月		
7月	※きょうされん夏季販売(お茶販売) 日本財団 DIVERSITY IN ARTS 公募展応募	
8月	きょうされんデザインコンクール応募	
9月		いのちかがやけ作品展 WEB
10月		きょうされん全国大会 WEB
11月	※きょうされん冬季販売(お茶販売) インフルエンザ予防接種	
12月	クリスマス会、 販売カタログ配布・みんなの作品展 WEB、	
1月	※きょうされんバレンタイン販売	
2月	利用者特定健診	
3月	※きょうされん春季物品販売 ボーナス支給 わくわく弁当・お楽しみデザート (感染症拡大のため旅行の代替え)	

- ・毎月1回…レクリエーション、自治会、体重血圧測定、避難訓練、給料日
- ・旅行…わくわく弁当・おたのしみデザート、  
※利用者ボーナスの取り組み

## 2. 生活寮部門

### (1) 共同生活援助（共同生活援助サービス費 世話人配置4：1）

#### 1) 運営状況

ア. 開所日数 365日

イ. 在籍者数 うみ7名、そら7名 にじ7名 かぜ6名 計27名

#### 2) 利用者の状況（2022年3月31日現在）

ア. 利用状況（年間84.0%）※利用日数は月の日数×ユニット定員数（28名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	30日	31日	30日	31日	31日	30日	
利用日数 28名分	840日	868日	840日	868日	868日	840日	
実利用日数	740日	691日	737日	741日	636日	711日	
利用率（%）	88.1%	79.6%	87.7%	85.4%	73.3%	84.6%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	31日	30日	31日	31日	28日	31日	365日
利用日数 28名分	868日	840日	868日	868日	784日	837日	10,189日
実利用日数	747日	730日	744日	689日	664日	723日	8,553日
利用率（%）	86.1%	86.9%	85.7%	79.4%	84.7%	86.4%	84.0%

※（年度による利用割合）（3月は27名）

	2019年度	2020年度	2021年度
開所日数	10,248日	10,220日	10,189日
実利用日数	8,280日	8,663日	8,553日
利用率	80.8%	84.8%	84.0%

#### イ. 人数構成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
うみ	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
そら	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
にじ	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
かぜ	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6
合計	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	27

#### ウ. 居住地別

東久留米	東村山	清瀬市	西東京市	合計
23	2	1	1	27

エ. 日中活動の場

法人内			法人外		合計
のぞみの家	活動センターかなえ	なかまの家	福祉作業所	一般就労	
13	7	5	1	1	27

オ. 年齢構成

性別	～30歳	～35歳	～40歳	～45歳	～50歳	51歳以上	計
女		2	2	3	3	4	14
男		1	3	3	5	1	13
合計		3	5	6	8	5	27
平均年齢	男性 44.2歳			女性 45.0歳			合計 44.6歳

カ. 障害区分

(ア) 手帳

身体障害者		愛の手帳 (知的障害)						
及び 知的障害者		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体障害者手帳	1種	1級	1	5	1	3		10
		2級		3				3
		3級						
		4級		1				1
	2種	5級						
	なし		1	10	2	1		14
合計		2	19	3	4		28	

(イ) 障害支援区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	区分なし	合計
合計	22	4					1	27

障害・疾患 (医療的ケア) の内容

知的障害 視力障害 聴力障害 てんかん レノックス症候群 自閉症

脳性麻痺による体幹機能障害 ダウン症 小頭症 精神障害 その他

※重度支援加算対象者 15名 ※医療連携加算対象者 1名

キ. 車いすの使用状況

常時使用		状況により使用		独歩		計
自力移動可	自力移動不可	外出時使用	その他	要介助	独歩	
1	4	1	1	5	15	27

ク. スタッフの状況 (2022年3月31日現在)

(ア) 各会議・打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	寮長、正規職員	毎月1回
ユニット会議	寮長、正規職員、非常勤職員	毎月1回
アセスメント・モニタリング	サービス管理責任者、主任、担当職員	随時
日中とのケース会議	担当職員、サビ管	2ヶ月1回
責任者会議	寮長、サビ管	週1回

(イ) 運営体制 (述べ人数)

日課表

日勤：08：30～17：15 (07：00～15：45)

早番：08：00～10：00 (06：00～10：00)

遅番：16：00～21：00 (15：00～20：45)

夜勤：15：30～翌日10：00 (16:00～翌日10:00) (2時間30分の休憩を含む)

(勤務例として)

スタッフ A	月	火	水	木	金	土	日	計
	夜勤		夜勤		早番：遅番			
	16 h		16 h		8 h			40.0 h
スタッフ B	月	火	水	木	金	土	日	計
		夜勤		夜勤		早番：遅番		
		16 h		16 h		8 h		40.0 h

3) 重点課題

新型コロナウイルス感染が引き続き広がっている状況のなか、利用者一人ひとりの暮らしを大切にしていくなためにも、スタッフ体制の増強を図るために人材コンサルタントに依頼し、年間を通して人材確保を行ってまいりました。しかし、ニーズにあったスタッフの確保は難しく引き続き人材確保の取組を行っています。

ア. 入居者一人ひとりがその人らしい生活を送るための支援を行います。

2月には、生活寮かぜの利用者がお亡くなり、「命」の大切さに向き合う場面をスタッフ一同痛感いたしました。あらためて、一人ひとりのニーズや状況に合わせて、必要な場合は通院同行や訪問看護の受入れなど医療支援についても家庭との連携の中行うことの重要性を感じています。

イ. スタッフ同士の情報を共有し、報告、連絡、相談を組織的に行います。

昨年度に引き続き、職員会議は業務やスタッフ体制等の確認を行い、ユニット会議(うみそら・にじかぜ)はそれぞれの利用者の状況や暮らしの工夫を話し合う場として毎月行うことができました。しかし、新型コロナ禍でのスタッフの業務の負担増から、個別支援会議は年度途中から休止せざるを得ませんで

した。

ウ. 365日利用に対応した体制づくりをめざします。

現在28名の利用者の生活を支援していますが、毎年利用者だけでなく家庭支援も必要な場面があります。365日支援に向けて、それぞれの家庭と連携し利用者支援していく体制づくりが必要となっていますが、具体的な取り組みには至りませんでした。

#### 4) 各項目の重点課題

##### ア. 生活寮そら

(ア) 生活環境を整えます。

入居者自身が自らの生活を作っていく環境づくりを大切にしました。

(イ) 加齢に伴う健康・体調の管理を丁寧に行なっていきます。

事業所間の連絡事項を表などの書面と電話での直接的な方法などと併せて行い、連携の強化を行いました。また、通院同行など、医療との連携を行いました。一人ひとりに合った食形態・食事を日中事業所や専門機関と連携を図りながら支援しました。

過ごし方を寮でもできる環境を整備しながら、利用者本人の生活力や要求を引き出し「自分のくらし」づくりのサポートを心がけています。

#### (2) 生活寮にじかぜ短期入所

##### 1) 運営状況

ア. 開所日数 390日(2名枠)

イ. 在籍者数 15名

##### 2) 利用者の状況(2022年3月31日現在)

##### ア. 利用状況表

月	定員	月毎の人数枠③	利用実績④	稼働率⑤=④/③×100
4月	2名	32名	30名	93.75%
5月	2名	28名	24名	85.71%
6月	2名	38名	38名	100.00%
7月	2名	32名	32名	100.00%
8月	2名	30名	22名	73.33%
9月	2名	32名	32名	100.00%
10月	2名	36名	36名	100.00%
11月	2名	40名	39名	97.50%
12月	2名	36名	35名	97.22%
1月	2名	30名	30名	100.00%
2月	2名	26名	26名	100.00%
3月	2名	30名	29名	96.66%
合計	2名	390名	373名	95.64%
平均値	2名	32.5名	31.0名	

※利用可能日については、現在体制上、月～木の4日間のみ、だが緊急度の高いケースの対応のため可能日を増やした。

### 3) 重点課題

ア. それぞれの利用者のニーズに沿った支援を行います。

利用日や支援についてかかわるスタッフと情報を共有しやすい仕組みを作りました。

イ. 60%の稼働率をめざします。

計画相談事業と連携をはかり、新たなニーズの掘り起こしを行いました。1泊のみの利用だった利用者の連泊などを検討し利用日数の増加することができました。

### (3) 共通事項

#### 1) 楽しみ

28名の暮らしが安定してきていることやコロナ禍でのステイホームの必要性の中で、お昼のデリバリー、年末年始の食事などで暮らしのなかに利用者が楽しむことができるよう取り組みました。

#### 2) 食事

食事宅配業者と献立や食材の選定・配達などについて話し合いをすることができました。専門家の力もかりて、スタッフの知識を身につける学びの機会を増やし、食事の形態だけにとらわれない「食事の楽しみ」も、利用者本人の思いをくみとりながら追求しました。

#### 3) 健康・医療について

日常の様子や体調の急変時も、その情報をスタッフ間、事業所間で共有し、主治医など医療の専門職の意見も取り入れながら、客観的、多角的な視点をもって対応してきました。体調不良時の際は、通院同行や利用者にとって最善な「療養」の場としての寮利用についても、スタッフ体制を他事業所とも連携しながら対応しました。

#### 4) 消防訓練・防災管理等について

ユニットごとで利用者の障害の特性や個別のニーズに合わせた避難の仕方を考えました。年1回の消防団員が来た時の訓練では、消火器訓練を中心に計画をしました。防災管理については、防火・防災管理者講習の受講者を増やしました。備蓄品確保や防災グッズの購入・個別の避難セットなどの整備を引き続き行います。

#### 5) 職員に関する計画について

定期的な会議を行い、情報共有・意見交換の場を確保してきました。また、日中部門の会議に参加し法人全体の情報の共有も出来る仕組みを行っています。

幅広い障害についての学習や暮らしの支援、健康面での支援など暮らしにかかわる分野は、年々多岐にわたってきています。専門家のアドバイザーを招聘して、通年で実践の質を向上していく仕組みは引き続き行っていきます。

外部研修にはオンラインで参加し、入居者に対して広い視野で柔軟な支援が行えるように取り組みました。

#### 6) 地域との連携について

新型コロナ禍では、地域の自治会活動への参加は難しい状況でした。障害のある方に対しての理解や災害時等に地域の方にも協力をいただくためにも、引き続き検討し地域との連携を深めていきます。

#### 7) 環境整備について

うみそらの敷地を囲むフェンスの補修工事を行いました。洗濯機などの家電の買い替えも行ってきました。これからも災害に強い寮をめざして環境整備に力を入れていきます。

### (4) スケジュール

#### 1) 1日の流れ

時間	寮の動き	スタッフの動き
15:45 16:00	各作業所より帰寮	打ち合わせ・受け入れ準備 送迎受け入れ 賄スタッフ夕食準備
18:00	思い思いに過ごす 入浴 夕食 入浴	配膳・投薬等 入浴介助
21:00	リビング消灯	各書類等記入 就寝支援・事務作業等
6:00 7:00 9:00	起床 朝食 各作業所へ	賄いスタッフ朝食準備 配膳・投薬等 送りだし 掃除・申し送り

## 2) 年間行事

月	利用者	スタッフ
4月		
5月	長期休暇中、日中の楽しみ	健康診断
6月		
7月		モニタリング
8月	お盆中、日中の楽しみ	
9月		
10月		
11月		スタッフ面接実施
12月	クリスマス会	
1月		
2月		個別支援計画更新、健康診断
3月		

- ※誕生日献立は、寮にいる方みんなでお食事をしてお祝いをします。
- ※責任者会議を週1度、ユニット会議と全体会議を定期的に月1度行います。
- ※消防訓練を各ユニットで行っています。

### 3. 余暇・居宅部門

#### (1) 重点課題

1) 実践会議(パート会議、職員会議を定期的で開催し、利用者の状態・状況を確認し合います。活動前の打ち合わせの際、各グループでの遊びや活動の情報、子ども達の最近の様子を共有する場を設けます。

ご家庭、学校からなどの様子は書面にて伝えるなどし、活動前のミーティングでも伝えることができました。その際の情報には個人情報にも関係する為に扱いを注意しました。

2) 各学校、子ども家庭支援センター、児童相談所、発達相談室、相談支援部門、医療機関と連携を図ります。

連携するには時間も大切な為、職員は誰でも連絡が来たらやり取りができるように職員間でも情報の共有をし、連絡があったときはスムーズにやり取りをすることができました。また関係機関とは些細なことでも連絡し合い、いつでもやり取りをすることができるようになってきました。

3) 家庭環境に課題のあるケースに関しては関係機関との連携を図り支援していきます。またその際に得た個人情報は管理をしていきます。

このみだけではなく、このみに入ってきた情報は関係機関に報告し、必要であればケース会議の開催やこのみ、自宅での面談を設定し解決する方法を見出してきました。困難ケースでは情報の扱いには特に注意し、保管場所も決め管理することができました。

4) 障害が発見され悩んでいる父母をフォローし、行き場のない未就学児を積極的に受け入れて対応していきます。他の関係機関とやり取りが必要なケースの場合は速やかに会議を設けていきます。

関係機関だけではなく、保護者の紹介という形での相談ケースには、地域の福祉支援のお話しから行い、保護者の悩みから解決できるようにお話を伺ったり地域の福祉機関を紹介したりするなど行いました。その後の様子も連携を取りながら支援も行うことができました。

5) 様々な理由で不登校になった子ども達が学校に行くことができるようになるまで関係機関と連携して安心して、定期的に過ごせる場を設け、学校へ行きやすくなるような環境作りを各学校とも協力し支援を行っていきます。

まずは学校へ行くことを目的とせず、関係作りから支援を行ってきました。自宅から出ることができない子どももいる為に前日からやり取りをしてみたり当日にお迎えに行っても自宅から出られなくても、安心するような言葉掛けを行うことで次回へと繋ぐことができるような支援を心がけました。

6) 引き続き新型コロナウイルス感染予防対策には十分に配慮を行いマスク、手洗い、検温、消毒を行いまた定期的な感染予防対策の周知徹底を図ります。

各福祉施設とも情報の共有を行い、学校関係者からの情報を頂くことで感染の状況を把握し対策を行うこともできました。引き続き、感染対策には情報の

共有だけではなく、感染防止マニュアルを徹底していきます。

(2) 事業所の報告

ア. 運営状況

(ア) 開所日数 239日

(イ) 在籍者数 36人

イ. 利用者の状況 (2022年3月31日現在)

(ア) 人数構成

<登録者数> 36名(放課後等デイサービス利用者登録数)

25名(日中一時・移動支援利用者登録数)

<1日の活動者数> 10名(放課後等デイサービス)

5名(日中一時：同時サービス利用者数)

移動支援は制限なし

(イ) 居住地別

<利用者居住地> 東久留米市36名

(ウ) 年齢構成(放課後等デイサービス・日中一時・移動支援含む)

	性別	未就学 児	小学 1 ~2年	小学 3 ~4年	小学 5 ~6年	中学 1~ 3年	高校 1 ~3年	成人	合計
利用者	男	1	5	6	14	12	8	1	47
	女	0	3	1	1	3	1	5	14
合計		1	8	7	15	15	9	6	61

(エ) 障害区分

ア) 手帳(放課後等デイサービス・日中一時・移動支援を含む)

身体障害者 及び 知的障害者		愛の手帳(知的障害)						
		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体障害者手帳	1種	1級		2				2
		2級		1				1
		3級			1			1
		4級			1	1		2
		5級						
	2種	1級						
		2級						
		3級			1			1
		4級	1					1
		5級						
	精神2級						2	2
なし		0	12	15	14	10	51	
合計		1	15	18	15	12	61	

イ) 障害支援区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2 (該当なし)	区分1 (該当あり)	合計
放課後等デイサービス					7	29	36
合計					7	29	36

障害・疾患(医療的ケア)の内容

知的障害 てんかん レノックス症候群 自閉症 脳性マヒによる体幹機能障害 ダウン症  
精神障害 その他

(オ) おもな学校

東京学芸大附属特別支援学校

清瀬特別支援学校

東久留米特別支援学校

東久留米市立第三小学校 すずかけ学級・普通学級

東久留米市立第七小学校 しらゆり学級

東久留米市立神宝小学校 わかば学級 なのはな学級

東久留米市立南町小学校 たけのこ学級 ひまわり学級

ウ. スタッフの状況 (2021年3月31日現在)

(ア) 各会議・打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	施設長・正規職員・非常勤職員	毎月1回
アセスメント・モニタリング	施設長・正規職員・非常勤職員	随時
保健・車両・防災	看護師(保健衛生のみ)・担当職員	毎月1回

(イ) 運営体制(延べ人数)

職名	常勤	非常勤	パート	委託	合計	備考
施設長	1				1	
事務			1		1	
支援員	2	1	11		14	
運転手						
看護師						
会計				1	1	
労務士				1	1	
合計	3	1	12	2	18	

(ウ) 1日の体制

職名		常勤		非常勤	パート	合計	
施設長		1				1	
事務					1	1	
サービス 管理者	放課後等 デイサービス	1	1	1	2	1	4
		合計		3	1	3	7

エ. 消防報告

長期休暇中の活動時間が長い日に訓練を行いました。実際の避難場所(久留米総合高校)に行く避難訓練や、非常食の実食の為に子ども達と一緒にカセットコンロを使いレトルトカレーを温めたて食べるなどの訓練を行うことが出来ました。実際の災害時でも落ち着いて行動できるように、継続していきます。

オ. 活動の報告

(ア) 1日

授 業 日	13:00～	送迎	休 業 日	10:00	活動開始
	13 : 30 ～	活動開始		12:00	お昼
	17:30	あいさつ 送迎		13:30～15:30	午後活動開 始
	18:00	家族お迎え		15:30～	あいさつ 送迎
				16:00	家族お迎え

昼食作り（長期休暇中）・おやつ作り・ゲーム・創作・外遊び・買い物

(イ) 1週間

	月	火	水	木	金
午 前	(授業日) ・学校 (休業日) ・買い物 ・昼食作り	(授業日) ・学校 (休業日) ・買い物 ・昼食作り	(授業日) ・学校 (休業日) ・買い物 ・昼食作り	(授業日) ・学校 (休業日) ・買い物 ・昼食作り	(授業日) ・学校 (休業日) ・買い物 ・昼食作り
午 後	(授業日) ・おやつ作り ・室内遊び ・外遊び ・ウォーキング (休業日) ・室内遊び ・外遊び ・ウォーキング ・プール(夏季 のみ)	(授業日) ・おやつ作り ・室内遊び ・外遊び ・ウォーキング (休業日) ・室内遊び ・外遊び ・ウォーキング ・プール(夏季 のみ)	(授業日) ・おやつ作り ・室内遊び ・外遊び ・ウォーキング (休業日) ・室内遊び ・外遊び ・ウォーキング ・プール(夏季 のみ)	(授業日) ・おやつ作り ・室内遊び ・外遊び ・ウォーキング (休業日) ・室内遊び ・外遊び ・ウォーキング ・プール(夏季 のみ)	(授業日) ・おやつ作り ・室内遊び ・外遊び ・ウォーキング (休業日) ・室内遊び ・外遊び ・ウォーキング ・プール(夏季 のみ)

(ウ) 1年間

5月	こどもまつり（中止）
7月	清瀬特支夏祭り イリアンソス夏祭り（中止）
8月	夕涼み会 おひさまサンサンフェスティバル（中止）
9月	いのちかがやけ作品展（リモート）
10月	他事業所合同ハロウィンパレード（中止）
12月	にぎやかカーニバル（中止）
3月	ぽかぽか春の集い（中止）

## 1) 放課後等デイサービス

### ア. 重点課題

(ア) 関係機関と連携し、いつでもやり取りをすることが出来る環境を作ります。各関係機関と連携し、日常的に連絡を取り合いました。また、会議の設定など速やかに行うことができました。会議を通して情報の共有を行い、支援方法の確認をしました。

(イ) 人との触れ合いの中で、社会性を身に付けながらスタッフと共に成長します。集団での遊びを通して、約束やルールを守れるようにします。

年齢や学校、また障害種別などにとらわれない活動を行うことで、子どもたち同士が意識し合い、やり取りする場面が増えてきています。異なる遊びをしても、同じ部屋や空間にいて自然と友達を意識していることが多くありました。パソコンなど、順番に使いたいものがあるときは「何分間使用」などとルールを決めて遊べるように支援しました。また、パソコンを通して子どもたち同士で YouTube を一緒に見たり、エクセルで表を作ってみたりと新しい取り組みも行うことができました。引き続き、デジタルな活動も積極的に取り入れて「遊び」や生活面での幅が広がるように活動を工夫します。

(ウ) 生活していく上でごく普通と思われるような家庭的な活動（昼食作り、おやつ作りなど）を積極的に取り入れていきます。

長期休暇時は、昼食作りを計画していましたが、新型コロナウイルス感染症予防の為に中止にしました。こども達の中には「昼食作り」が楽しみでこのみに来ている子もいるので残念な様子でした。昼食作りは行うことができませんでしたが、おやつ作りは行いました。感染症対策を行い、少人数で行いました。おやつ作りが好きな子は嬉しそうにしていました。また「自分で作って食べる」ことの大切さと楽しさも感じるようになりました。

(エ) 地域の人達と交流ができるように公共施設等に出掛け、行事に参加します。児童館など地域のこども達と遊ぶことができる環境を提供します。

感染症予防のため、地域の施設に出かけることができませんでした。また、例年参加している行事が中止になってしまったため、地域の行事に参加することができませんでした。オンラインで行われたいのちかがやけ作品展には参加しました。作品展への取り組みでは、子どもたちが何を作りたいのかを考えられるようにし、作品を作りました。

(オ) どのような事態でも安心して活動に参加できるようにします。

新型コロナウイルス感染症予防の為に、定期的に室内や送迎車などの消毒、換気などの施設整備、こども達やスタッフの検温、手洗い、マスクの着用の徹底を行いました。スタッフの PCR 検査も定期的に行い、安心してこども達と接することができました。また、少人数で遊ぶようにして、密にならないように工夫しながら活動しました。関係施設とコロナに関して情報交換や共有を図りました。家庭の状況の把握など定期的に行い、緊急連絡先の確認などを行いました。

した。

(カ) 誰もが安心して利用できる「放課後等デイサービス」になるように事業所や関係機関とやり取りを行っていきます。

子どもたちの遊び場の環境整備として、施設内の壁紙の張替えを行いました。子どもたちもすぐに気が付き壁に触れてみるなど、喜んでいる様子が伺えました。

放課後連の会議に参加し、情勢の把握に努めました。また、市内事業所とも会議を設けるなど連絡を取り合い、最新の状況を確認しました。必要であれば電話で連絡を取り合うなど、連携を密に行えるようにしました。

## 2) 移動支援事業

### ア. 重点課題

(ア) 法人内生活寮の成人の方のニーズに応じていけるようスタッフ体制を整え、市内だけではなく、市外の広域にも求人募集を行います。

毎週土曜日には法人生活寮利用者の支援を行いました。支援内容について寮職員と連携し、美容院などにも定期的に出掛ける支援を行いました。引き続き、利用者のニーズに応えられるようにします。

(イ) 利用者個々の支援方法を統一化します。

活動報告書を元に、課題を整理して支援方法の統一を図りました。引き続き整理を行い、マニュアルを作成します。

(ウ) トラブルが行ってしまった時に備えてマニュアルをスタッフ会議などで確認します。

新型コロナウイルス感染症の影響で、スタッフ会議を行うことが出来ませんでした。必要なことは書面にして配布し共有を図りました。また、全体へ共有することは壁などに掲示し、確認できるようにしました。

(エ) 利用者の将来を見据えての支援を行って行きます。

移動する手段だけではなく、依頼ごとに支援方針を決めて支援を行いました。移動支援を利用することで様々なことを学ぶことができます。そこから自信がつき、人とのやり取りが増え様々な活動にも積極的になることが増えてきました。本人の持っている力を引き出す大切さと難しさを考えながら支援しました。

不登校児への対応をしました。様々な事情で学校へ自分で行くことのできなかった方に対しても支援を行うことで登校へとつなげることができました。様々なケースにも積極的に対応することができました。学校へ行くことができれば生活の幅も広がることも支援を通じて実感することができました。

(オ) 移動支援をさらに利用しやすくする為に関係機関とやり取りを行います。

感染症流行のため、公共機関の利用を懸念される方の中には移動手段がなく、定期通院が困難な家庭があります。移動支援を利用してスタッフが同行し通院しました。成人に関しては、平日に定期健診の支援を行い健康管理にも繋げました。

他の移動支援事業者と連携を取り、運営などが充実するように話し合いの場を設けました。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、利用人数を制限することがありました。引き続き感染対策を十分に行い支援します。

### 3) 日中一時支援事業

#### ア. 重点課題

(ア) 家庭環境に課題のある家族が安心して利用できる場を提供していきます。

わかき発達相談室や子ども家庭支援センター、医療機関、各学校と連携を取り、必要であればケース会議を行うなど、個々に合った支援ができるようにしました。今後も相談の要望が増えることが予想されます。各関係機関と情報交換を行います。

今年度も各関係機関と連携を行うことができました。速やかな対応が必要なケースが多くあり連絡ツールも携帯電話などの活用も積極的に行いました。

(イ) 利用者個々の支援方法を統一化していきます。

活動報告書を元に、課題を整理して支援方法の統一を図りました。引き続き整理を行い、マニュアルを作成します。

形にとらわれないように分かりやすいマニュアル作りを引き続き行っていきます。

(ウ) 日中一時支援をさらに利用しやすくする為に関係機関とやり取りを行います。

学校に通う事がむずかしい子ども（不登校）へは、気持ちに寄り添いながら登校支援をおこない、時間をかけて支援することで子ども自身から折り合いをつけて学校にも行ける日もありました。学校には行けなくてもこのみで友達やスタッフと過ごすことができ、このみでは友達の輪を作ることができました。

当日の依頼など、様々なケースに柔軟に対応することができました。引き続き各関係機関と連携し、安心して過ごせる場所を提供していきます。

(エ) 日中一時利用に関して安定した利用ができるように定期的に制度についての説明を行っていきます。

今年度も様々な理由ではじめて日中一時などの制度を利用される方がいました。できるだけ分かりやすく丁寧に説明をすることで理解をして頂くことができました。

## 4. 相談部門

### (1) 重点課題

1) 引き続き法人内事業所の方を中心に計画相談・モニタリングをおこなっていきます。

ご本人・家族との信頼関係を築いていけるよう面談等を丁寧に行っていきます。本人中心の計画にしていくために、本人の生活に関わりのある支援関係者からも話を聞いていきます。

(ア) 利用者の様子、家庭の状況の変化などで今まで利用していなかった福祉制度を利用する場合には速やかに情報を集め利用計画の変更を行うことができました。

2) 障害のある方を中心に家族・関係者のつながりを大切にしていきます。

担当者会議・支援会議等を開催し本人の思いや希望を確認しあいながら、その人らしい暮らしに向けて、役割分担等をしていきます。関係する事業所の個別支援計画につなげていけるよう連携していきます。

(ア) 相談を通して各福祉施設と連携を取ることでより情報の共有、支援の手がかり、福祉制度の利用状況の確認をすることができました。

3) 相談支援の役割や今後の進め方について考えていきます。

定期的な相談支援部門会議で検討していきます。また、他相談支援事業所と情報交換をおこなう等連携し、外部研修にも積極的に参加していきます。

(ア) 今年度も他の事業所とやり取りをすることができました。学齢期では高等部の方の実習先との連携や学校からの依頼も頻繁にありました。福祉資源の基盤になる部門なので今後の発展に繋げていきます。

## 5. 事務部門

### (1) 重点課題

#### 1) 環境の整備を進めます

ハード面での整備も目途がつかしました。次はソフト面での整備を進めていきます。現在取り扱っているソフトが事務の一本化に沿っているものかの確認も含め、引き続き、現場の職員と連携をし、仕事のしやすい環境の整備を行なっていきます。

#### 2) 事務員の能力向上を進めていきます。

現在使用しているソフトの理解度を深め、能力の向上をしていきます。また、事務関係の研修だけでなく、法人内外で開催されます福祉についての研修にも参加をすることで、仕事の質を高めていきます。作業の効率を上げていくだけでなく、職員間でのコミュニケーションも大事に、より正確な入力作業に努めていきます。

また、勤怠ソフトを導入することで、事業所間の職員勤務や事業所における職員の勤怠状態を随時把握できるように、各事業所のソフト管理者と連携をとっていきます。

事務員は事務をするだけでなく、現場との連携が当法人にとって重要なスキルの一つと考えています。日々の作業にとらわれることなく、利用者を中心にした組織を支えていく職員となることを目標にしています。

#### 3) 配置状況

	本部	のぞみ	かなえ	なかま	生活寮	このみ	合計
常勤職員	2 (兼務②)	1 (兼務①)			1 (兼務①)		2
非常勤職員			1	1			2
パート職員		1	2		1	1	5
合計		2	3	1	2	1	9

2021年度 イリアソス 外部研修参加状況

年月日	研修名	主催	参加事業所	参加人数	備考
2021.8	てんかん講座	てんかん協会	活動センターかなえ	2	リモート研修
2021.9.9	東京都障害者支援施設等の新型コロナウイルス感染予防対策	東京都看護協会	活動センターかなえ・なかまの家	2	リモート研修
2021.9.1	新型コロナウイルス対策相談会	NPO法人ピースウィンズジャパン	活動センターかなえ	1	リモート
2021.9	食品衛生研修	食品衛生協会	活動センターかなえ	1	立川
2021.9	第1回スタートアップ研修	東京都社会福祉協議会	なかまの家	2	リモート研修
2021.9	強度行動障害(基礎)研修	公益財団法人東京都福祉保健財団	なかまの家	1	リモート研修
2021.12	新型コロナ感染防止対策研修 12月	東京都看護協会	なかまの家	1	リモート研修
2021.1	障害者の口腔ケア	多摩小平保健所	なかまの家	5	リモート研修
2021.11	重症心身障害児者の食事	都通研	なかまの家	1	リモート研修
2022.2	後輩を育てるコーチング	東京都社会福祉協議会	なかまの家	2	リモート参加
2021.5.27	食品衛生について (web)	都通研	のぞみの家	1	リモート研修
2021.6.1	『支援について』津久井やまゆり園事件ドキュメンタリー映画 (web)	都通研	のぞみの家	1	リモート研修
2021.6.12	吸引研修	特定非営利活動法人地域ケアさぼーと研究所事務所	のぞみの家	1	リモート研修
2021.6.21	リスクマネジメント研修 (web)	東京都社会福祉協議会(けんとくん)	のぞみの家・なかまの家	2	リモート研修
2021.6.21	ファシリテーション研修 (web)	東京都社会福祉協議会	のぞみの家・なかまの家	2	リモート研修
2021.7.16	コロナ禍でどうしてる?オンラインカフェ	東京都社会福祉協議会	のぞみの家	1	リモート研修
2021.7.28	発達障害(自閉症)をとらえなおす	東京都障害者通所活動施設職員研修会	のぞみの家	1	リモート研修
2021.8.2	虐待防止・権利擁護研修	公益財団法人東京都福祉保健財団	のぞみの家・活動センターかなえ	2	リモート研修
2021.8.27	虐待防止「より良い支援を考える」	東京都社会福祉協議会	のぞみの家・活動センターかなえ・なかまの家	全職員	リモート研修
2021.9.9	新型コロナウイルス感染防止対策研修	公益財団法人 東京都看護協会	のぞみの家・活動センターかなえ・なかまの家	1	リモート研修
2021.9.11	吸引研修	特定非営利活動法人 地域ケアさぼーと研究所事務所	のぞみの家	1	リモート研修
2021.9.15	オムツ着用方法	ユニ・チャームメンリッケ	のぞみの家	11	リモート研修
2021.9.22	withコロナ時代の支援 ～みんなで語ろう これから支援～	東京都障害者通所活動施設職員研修会	のぞみの家	1	リモート研修
2021.10.14	障害者の口腔ケアのい・ろ・は	多摩小平保健所	のぞみの家	1	多摩小平保健所
2021.11.22	人権について正しい理解と認識を深め業務の遂行に資する。	東京都福祉保健医療研修センター	のぞみの家	1	リモート
2021.12.14	AEDの使い方を学び現場での応急処置に活かす	東京消防庁東久留米消防署	のぞみの家	11	のぞみの家
2021.12.1	食品衛生責任者養成講習会	一般社団法人 東京都食品衛生協会	のぞみの家	3	リモート研修
2021.12.15	経営者が知っておくべき予算統制と事業計画作成のポイント	東京都社会福祉協議会	のぞみの家	1	リモート研修
2022.1.26	ライフステージに沿った個別支援を考える～超高齢化社会に求められる支援計画～	東京都障害者通所活動施設職員研修会	のぞみの家	1	リモート研修
2022.2.18	「重度・重複障害者への支援において大切な支援」	きょうされん重度重複障害部会	のぞみの家	1	リモート研修
2022.3.4	「ヘルスマンタル研修～今日できる!福祉職員のためのセルフケアについて」	東京都社会福祉協議会	のぞみの家	1	リモート研修
2021年度	サービス管理責任者更新研修	公益財団法人総合健康誌維新財団	活動センターかなえ	1	
2021年度	サービス管理責任者基礎研修	公益財団法人総合健康誌維新財団	活動センターかなえ・なかまの家	2	
2022.2.22	福祉事業者向けBCP作成講座	東京ガス	のぞみの家・活動センターかなえ	2	
2022.3.1	事業継続計画の考え方	都社会福祉協議会	活動センターかなえ	1	

